

一宮町長賞

さかもと ひでき
坂本 秀樹

「好きです。」たった4文字が言えない。
たった4文字で君が僕から離れて行ってしまいそうで。
このまま自分の気持ちを抑えて、
君と同じときを過ごす方がいいのか考えると
夜も眠れない日もあった。街で手をつないで歩くカップルたちの
姿を見るたびに自分に置き換えて見るけど、君は僕の隣じゃなく
いつも僕の後ろ。帰りも家に送り届けることも出来ない。
そんなことを思うと、もう君のことを忘れて、
君が僕以外の誰かと幸せになるのを、願った方がいいのか？
でも僕以外の人と歩く姿を想像すると胸が、はち切れそうになり、
こんなに君のことが好きなのに、なにも出来ない自分に腹が立って、
悔しくて...。
みんなで行ったハイキング。僕たちは道を間違えみんなと
はぐれてしまい、次第に辺りは暗くなり不安がる君たちを
励まし続け、みんなと合流できた。
君は半べそを掻きながら僕に「ありがとう。」とってくれた。
そのとき僕は思ったんだ。僕が車椅子に乗っていて、
手をつなぐことが出来なくても、家に送り届けることが出来なくても、
ほかに何かできるんじゃないかって。
それがなにか、やっとわかった。
それはどこの誰よりも君のことを好きだという気持ち。
例え想像もしない困難が二人に立ちはだかるうとも、
僕は君を守る。
僕はもう迷わない。この手紙を君が読んで僕の元から離れて
行っても後悔はしない。だから言わせてください。
あなたのことが「好きです。」と。

(千葉県／42歳)

社会福祉法人愛の友協会